

ひらつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '88 10月号

*** 10月の行事 ***

10月

- 1 土 古文書講読会／土曜観察会
- 7 金 星を見る会 "火星を見よう"
天体観察会
- 8 土 石仏を調べる会
- 12～13 体験学習 "土器づくり" 1・2日目
- 14 金 星を見る会
- 15 土 古文書講読会／土曜観察会
- 21 金 星を見る会 "火星を見よう"
- 22 土 石仏を調べる会
- 23 日 体験学習 "土器づくり" 3日目
- 28 金 天体観察会／星を見る会
- 30 日 相模川を歩く会まとめ

- 特別展 "神奈川県の植物" : 15～11/20
- 寄贈品コーナー：道具の歴史：30（日）まで
- プラネタリウム：火星大接近：30（日）まで

●寄贈品コーナー "サマーセミナー展"
8月に土屋七国荘で開かれたサマーセミナーの
様子を紹介します。

●11月自然観察会 "横浜自然観察の森"
日：11月13日（日）雨天中止 8～16時
所：横浜自然観察の森（横浜市栄区）
内容：冬を迎える動植物の観察
申込み：10月25日までに往復ハガキで。多
数の場合は抽選で30名。
費用：交通費（平塚から大人往復1,500円）

- 11月
- 4 金 星を見る会
- 5 土 古文書講読会／土曜観察会
- 11 金 星を見る会
- 12 土 石仏を調べる会
- 13 日 自然観察会 "横浜自然観察の森"
- 19 土 古文書講読会／土曜観察会
- 26 土 石仏を調べる会
- 27 日 相模川を歩く会／体験学習 "和紙づくり"
•特別展 "神奈川の植物" : 20（日）まで
•寄贈品コーナー "サマーセミナー展"
(1～29)まで
•プラネタリウム：望遠鏡新時代
(5～12/25)まで

●11月自然観察会 "横浜自然観察の森"
日：11月13日（日）雨天中止 8～16時
所：横浜自然観察の森（横浜市栄区）
内容：冬を迎える動植物の観察
申込み：10月25日までに往復ハガキで。多
数の場合は抽選で30名。
費用：交通費（平塚から大人往復1,500円）

●体験学習 "和紙づくり"
和紙づくりの技法と技術を学びます。
日時：11月27日（日） 9～15時
場所：科学教室
材料費（原料費等）：1人700円
申込み：11月17日までに往復ハガキで。希
望者多数の場合は、抽選で20名。

「神奈川の植物」

一秋期特別展一

★神奈川には何種類の植物があるのか？

神奈川県では昭和54年から「神奈川県植物誌調査会」によって全県的な植物の調査が行われてきました。この会には多くの市民が参加し、県立博物館、横須賀市自然博物館そして平塚市博物館が全面的にバックアップして、活動を行ってきました。その調査の結果「神奈川県のどこにどんな植物があるか」がほぼ90%明らかになり、その成果が、「神奈川県植物誌1988」として今春刊行されました。

今回の特別展は、神奈川県植物誌の刊行を記念して、今春県立博物館で開かれた「神奈川の植物」展の資料を主にして、平塚の皆さんにその成果を御紹介しようとするものです。

神奈川県には、実に2400種類以上の植物が生えていることが認められました。

★地域によってちがう植物

神奈川県は小さな県ですが、海も山もあって、自然が変化に富み、地域によって特色のある植物が見られます。

横浜・川崎の京浜地域は貿易港があるため、多くの帰化植物が入りこんどおり、今回の調査でも十数種類の新しい種類が発見されました。

三浦半島と真鶴半島は、海岸植物に特徴があり、湘南のような砂浜では見られない崖地に生える多くの種類が見られます。

丹沢と箱根には、山地の植物が多く、その中には「フォッサマグナ植物」と呼ばれる富士山周辺の山地だけに見られる種類が多くあります。

意外なほど変化に富んだ「身近かな神奈川の植物」を見直しましょう。（浜口）

★会場：特別展示室

会期：10月15日㈯～11月20日㈰

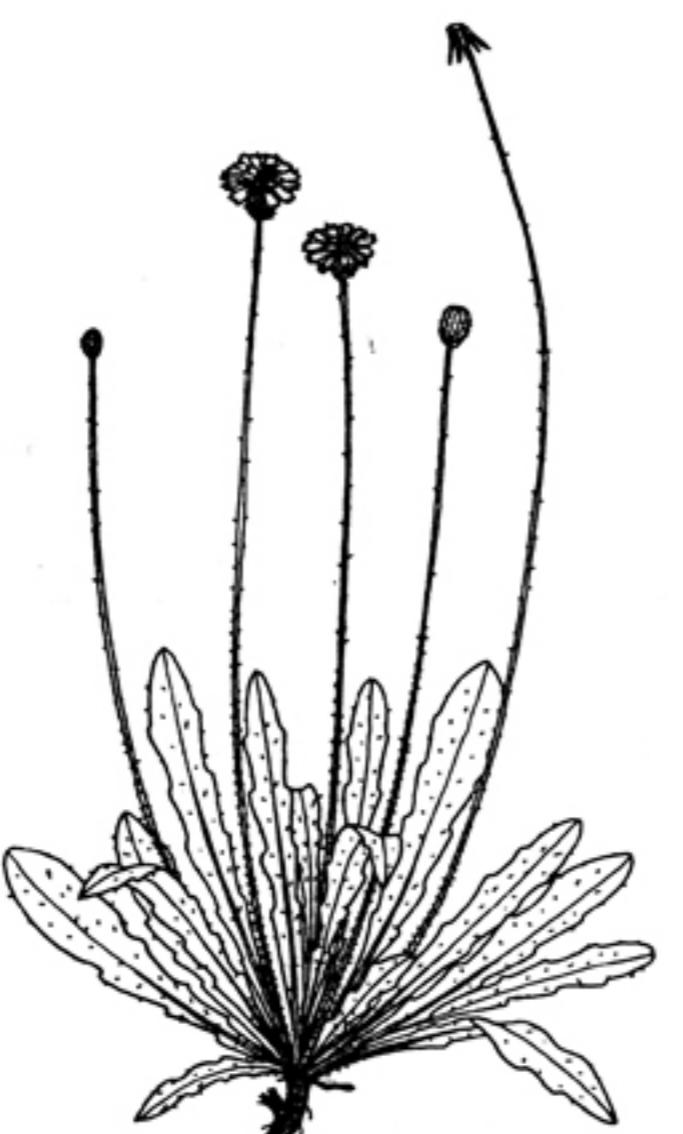
協力：神奈川県立博物館

★記念講演会「植物写真の撮り方」

日：11月20日㈰ 14時～16時

講師：永田芳男氏（植物写真家）

会場：博物館講堂（入場自由）

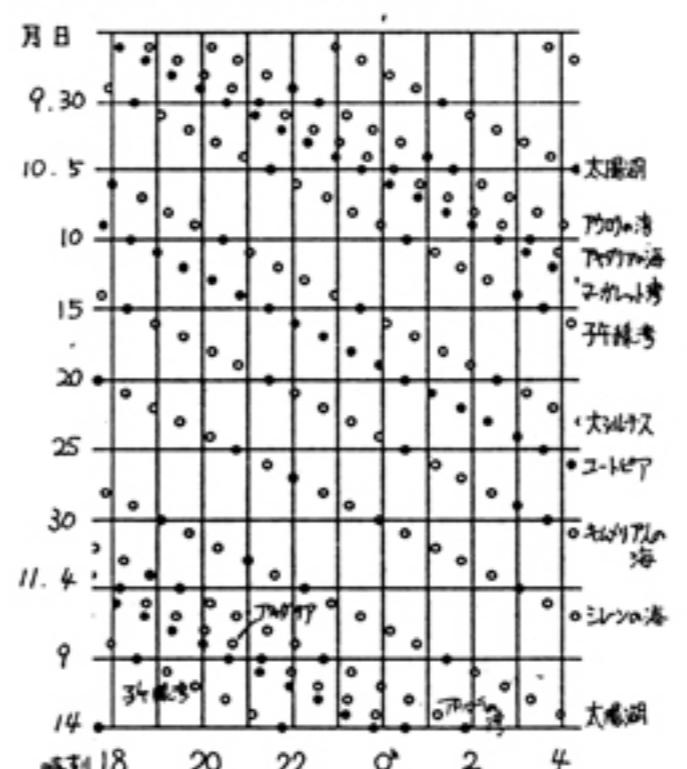


秦野市で日本ではじめて発見された帰化植物
カワリミタンポポモドキ

●火星接近。まだよく見えます。

先月22日に最接近後、離れつつある火星ですが、今月中ならまだじゅうぶん観察できます。望遠鏡で見る人のために、火星面のおもなもようが正面を向く時刻を表にしました。先月号の図とあわせて参考にして下さい。なお先月号の図の説明中、数字が欠けている箇所がありました。おわびいたします。（沢村）

もようがこちらを向く時刻

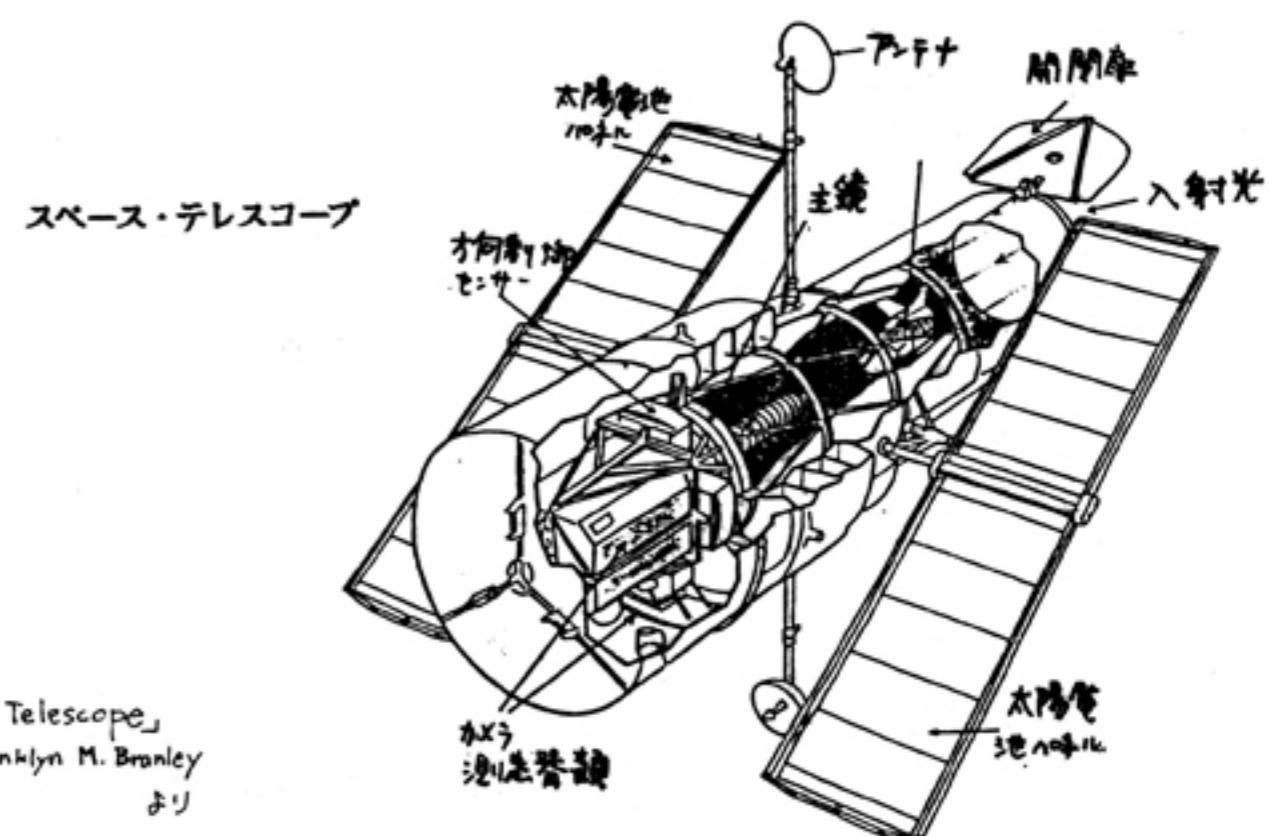


天文情報

●プラネタリウム「望遠鏡新時代」

11月5日から12月25日まで

「天体観測」と言えば、すぐ「望遠鏡」を連想される方も多いでしょう。ガリレオが初めて望遠鏡を天体に向けたのが1600年ころ。以来天体観測の歴史は、望遠鏡の発達とともに歩んできました。そして今、そこに新たなステップが刻まれようとしています。アメリカなどが計画する新しいスタイルの巨大望遠鏡、そして宇宙空間に浮かぶ天文台HST（ハッブル・スペース・テレスコープ）などについて、お話しします。（沢村）



「Space Telescope」
Franklyn M. Branley
より

「実習を終えて」

博物館には毎夏、多くの大学から実習生がやってきて、7~10日の間、博物館活動の実際を学びます。本年は資料の受入れから整理に至る手続き、発掘調査、古文書の扱い、写真の撮り方から暗室での諸操作等を実習しました。寄贈品コーナーの「道具の歴史IV」は、実習生による展示です。さて三人の方から実習を終えて“思ったこと感じたこと”をお寄せいただきましたので、紹介します。



「博物館実習を終えて」

和光大学 小岩 晶子

昭和63年9月13日火曜日から同21日水曜日までの7日間、私達17名はここ平塚市博物館にて、実習をさせていただいた。長いようで短かい実習を終えて今私の中で博物館に対する気持ちが、少しづつ変化していくのが解かる。

大学の授業でよく耳にする言葉で、「学芸員は雑芸員だ」と口にする人がいるが、それは間違いだと言いかれる。それは博物館で実際に仕事を目の当たりに出来なかつた不幸な人の言い訳にすぎないと思う。仮に展示までの作業の中に1つでもその展示担当の学芸員が作業の仕方がわからなく、他人に代ってもらって展示をしてもそれは展示品にはなるが、気のぬけたソーダ水みたいな物だと思う。やはり学芸員たるものどの作業にもオールマイティに対処できた上で、奥の深いかつ市民の為の博物館活躍がなされると、思った。



「地域創造と博物館」

駒沢大学 山岸 聰

通館に往復4時間かけた館務実習を、無事終えることができました。御指導をいただいた学芸員・職員の皆様に、厚くお礼を申しあげます。

東京在住の私がこの博物館を選んだのは、市立でありながら形式地域ではなく、相模川流域という実質地域を対象とし、教育普及活動も盛んな地域総合博物館だからです。しかし博物館の目標をどう設定しようと、研究の下積み作業はほぼ共通しており、それが無ければ博物館を、どの方向へも進めることができないことを、知りました。



「博物館実習を終えて」

東京学芸大学 小泉 幸恵

この実習ではまる7日間、古文書の裏打ちや発掘調査、寄贈品コーナーの展示替えと、普段学芸員の方が行っている仕事を実際に体験することができ、毎日が自分にとってかけがえのないものがありました。しかし、学芸員の方はなぜこれらを行うのかということについて何も言いません。一日一日の実習の中にその意図が隠されているのであって、実際の作業から自分なりに捉えていかなければならぬのです。そこでそれについて考えてみると、一つは、博物館の資料にはこのようなものがあるということを見て知り、且つ資料の扱い方も習得すること。そしてもう一つは、資料に対する見方・考え方を改め、資料への積極的な接し方を経験を通してつかむこと、にあつたのではないかでしょうか。博物館のその他の普及活動と同じく、博物館の良き理解者をつくることを目的として実習が行われているのです。だからこそ、博物館活動への参加のはじまりとして博物館実習は、“実習”で終わらせてはならないのだと、そう私は感じました。